

淪落のすゝめ











お母さんは忙しくて
居ない事が多いから

秋くーん

いつでも一緒に
居てくれた
まきお姉ちゃんは…

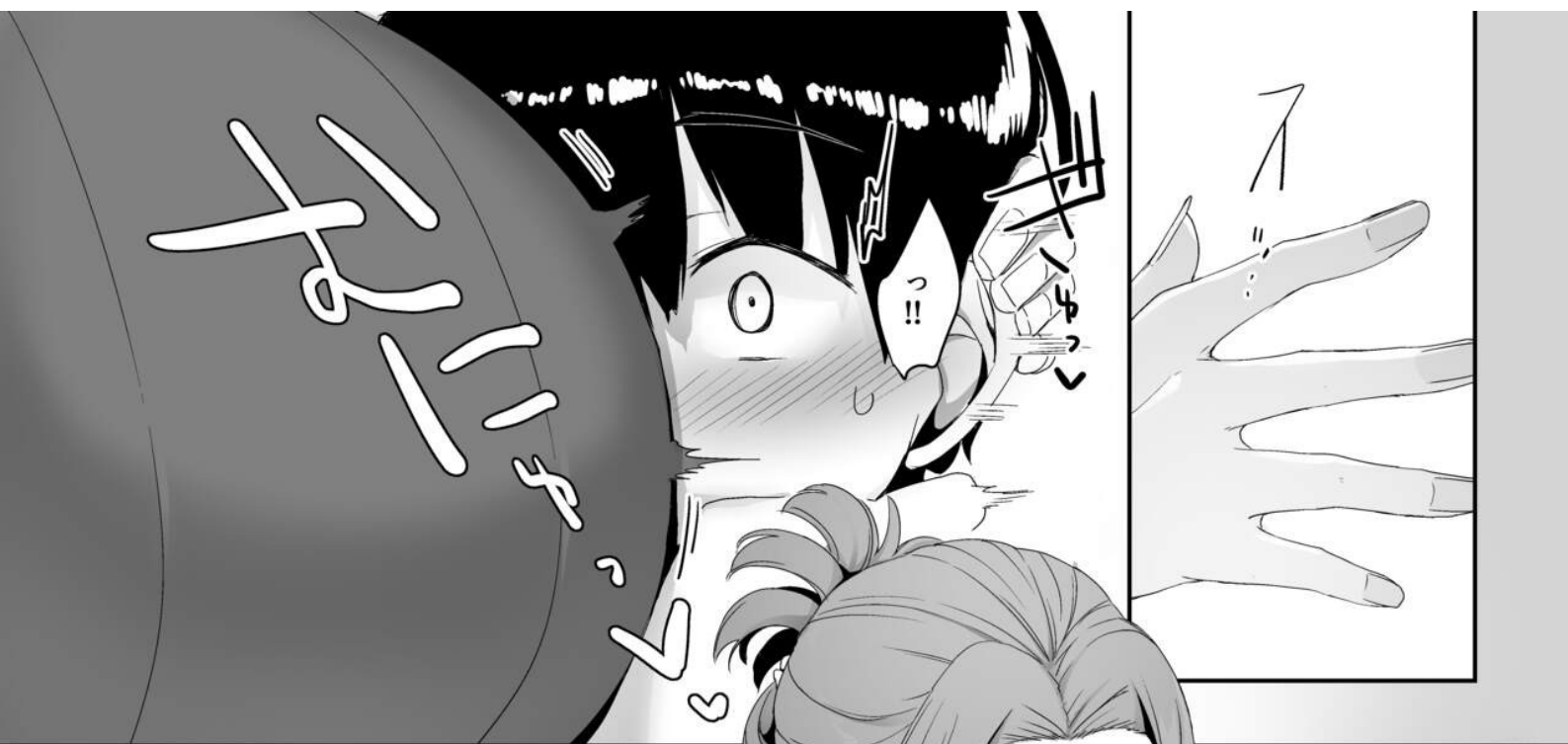
僕にとっての…

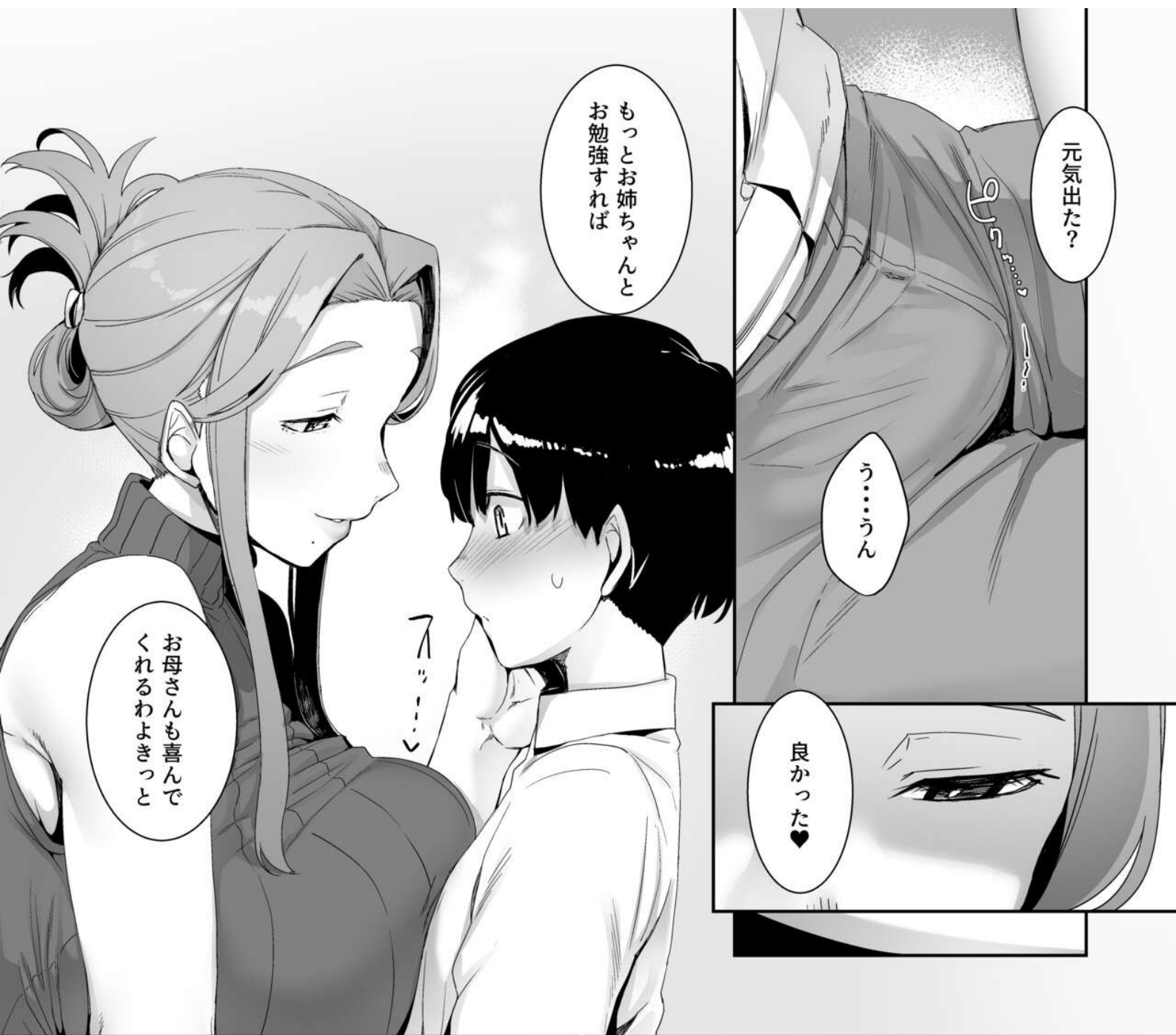
秋くーん

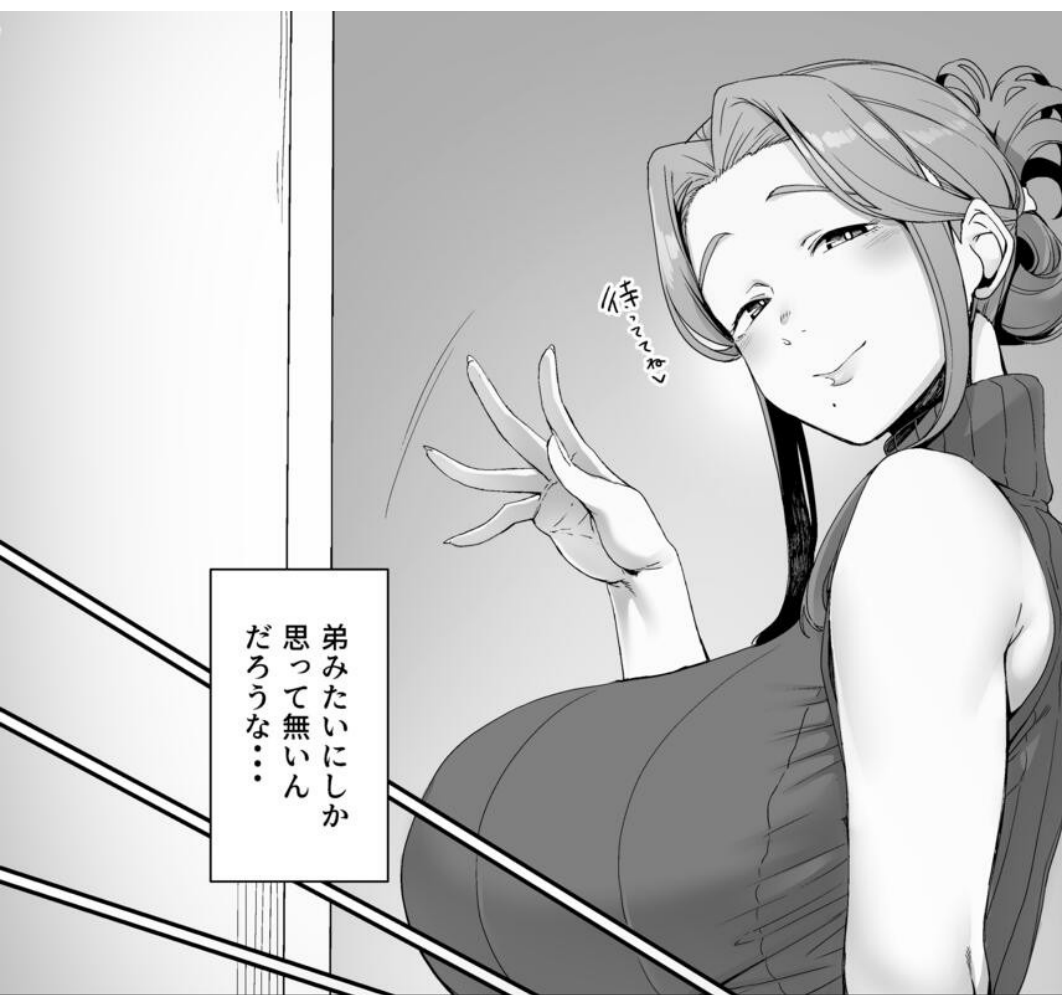
どうしたの？
ぼーっとして

…なんでも
ないよっ！

っっ…続き
しなきゃね







弟みたいになんか
思っただろうな...

でもお姉ちゃん
は僕の事なんて



——って何
考えてるんだ僕...

料理も上手だし
お姉ちゃんが
ホントにお嫁さん
だったら...



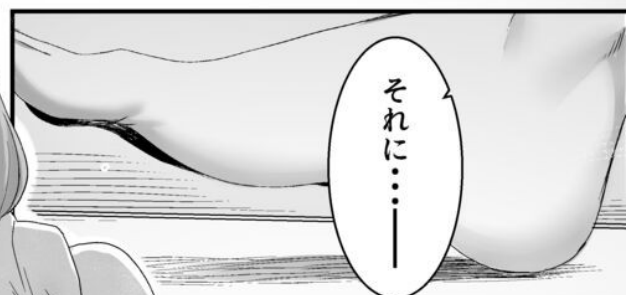
今日のお姉ちゃんのご飯も美味しかったなあ







気にしなくても
良いのに...♡



それに...—



—どうしてそんなに

顔が真っ赤に
なってるのかしら?



そっか...

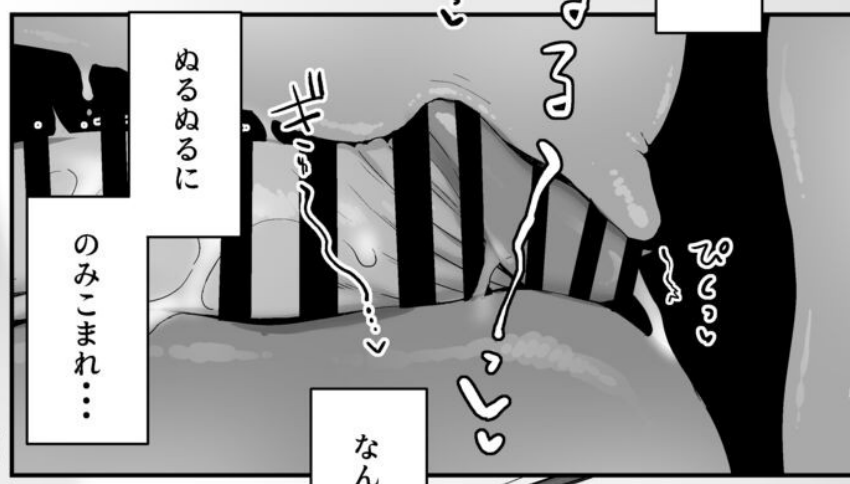
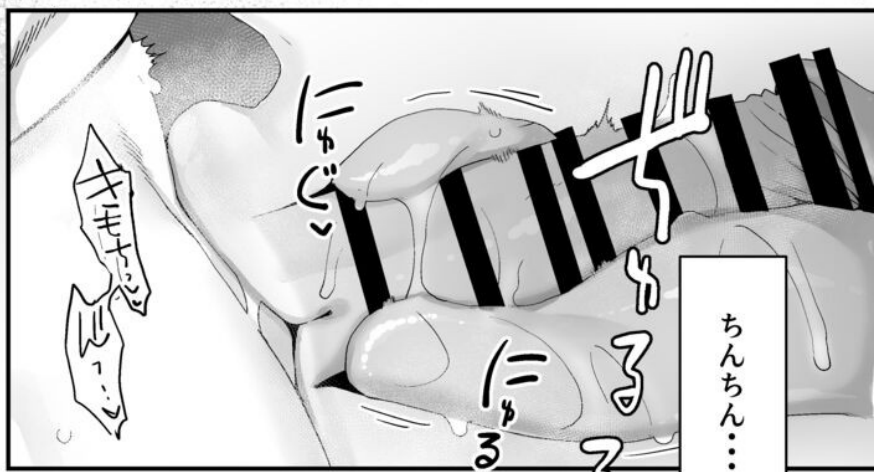
...っ!

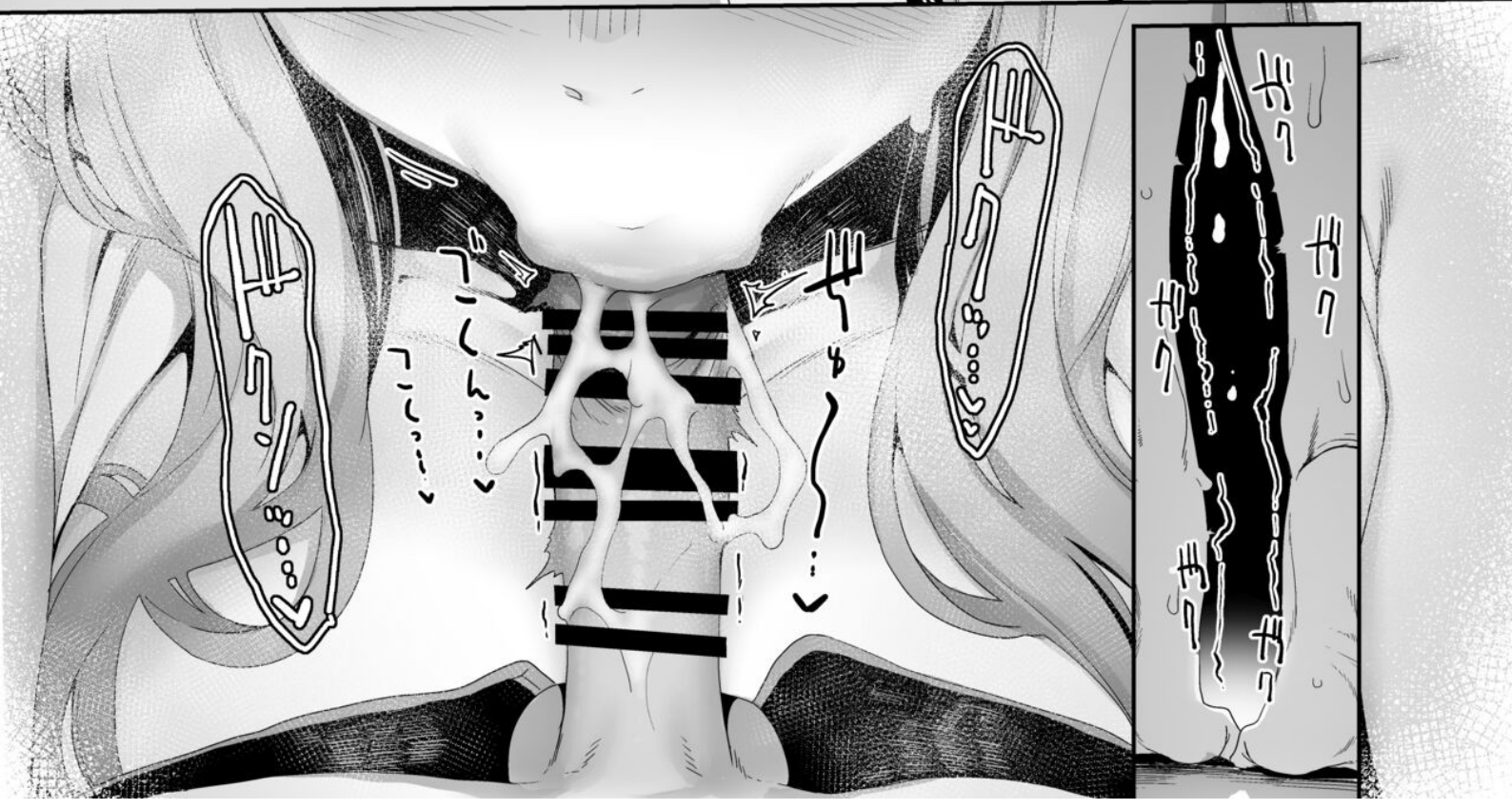
秋君もそんな
お年頃よねえ...

ちっ違...っ















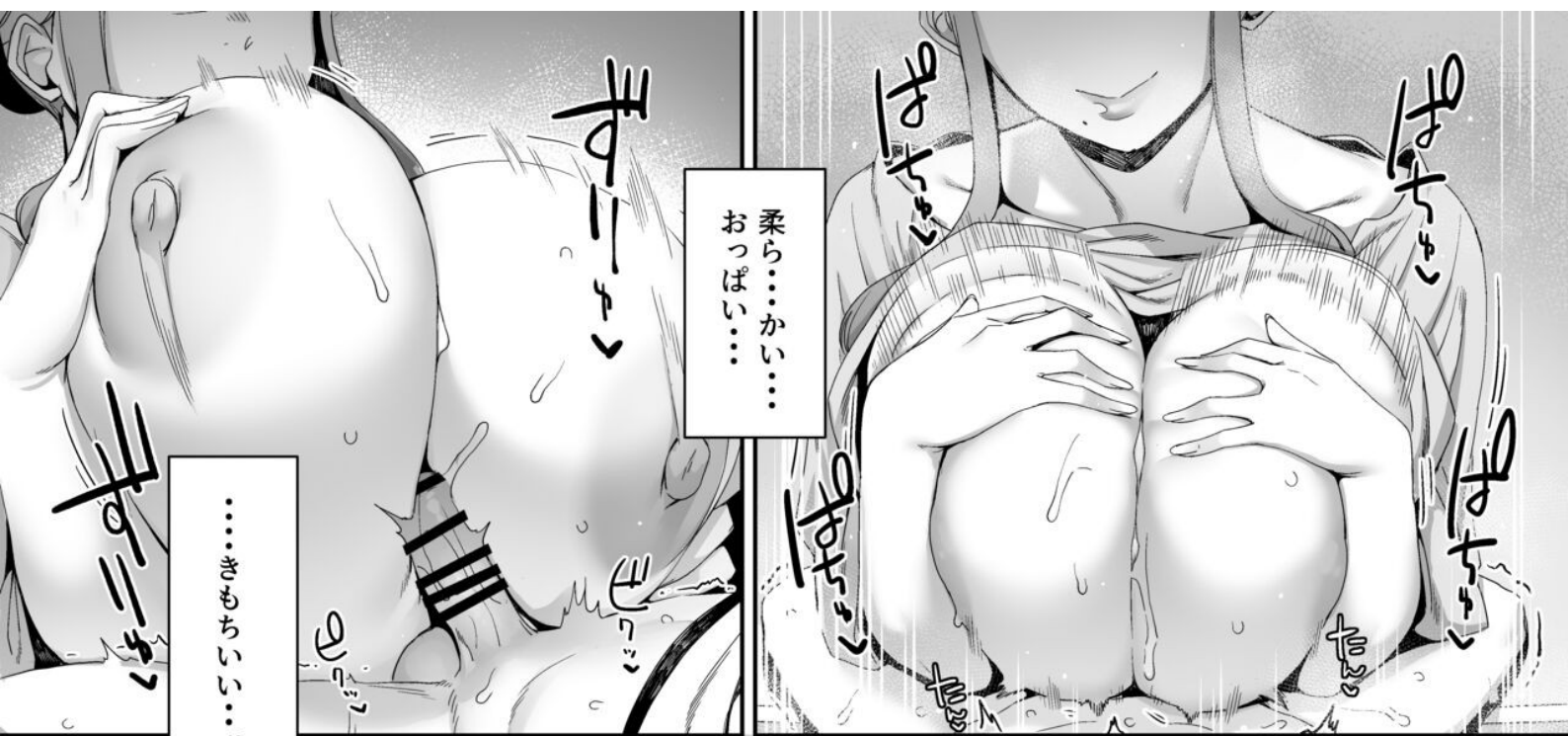
ふふっ
良いのよ

ちゃんと射精しないと
集中できないもんね♡

これもお勉強
だから……♡

おーっ♡♡♡♡♡







そうだっ！

おっぱい

自分で
触ってみる？

えっ…？！

ほらほら

遠慮しないで♡

むぎゅっ

ふふっ♡

なでん
なでん

今お姉ちゃんのおっぱいは秋君のモノだから

柔らかい…

すごい…

好きに気持ち良くな
って良いからね…♡



—ぽく……の……？







—それから

お姉ちゃんが家庭教師
してくれる日は必ず…

…ほんととは勉強とは
関係無いと分かってても

お姉ちゃんが
してくれるなら…



—そして今日も…



もう秋君はおっぱい
でもお口でも
いっぱいしたから

…もっと新しい事も
知らないからね♡









どう？

女の人の膣内に
射精すのって



とっても気持ち
良いでしょ♡

こんなに
気持ち良い事

恋人同士みーんな
してるの



今のお姉ちゃんは
秋君の恋人だから

好きなだけ
ぴゅっぴゅ
しようね…♡



ぬるぬるに...

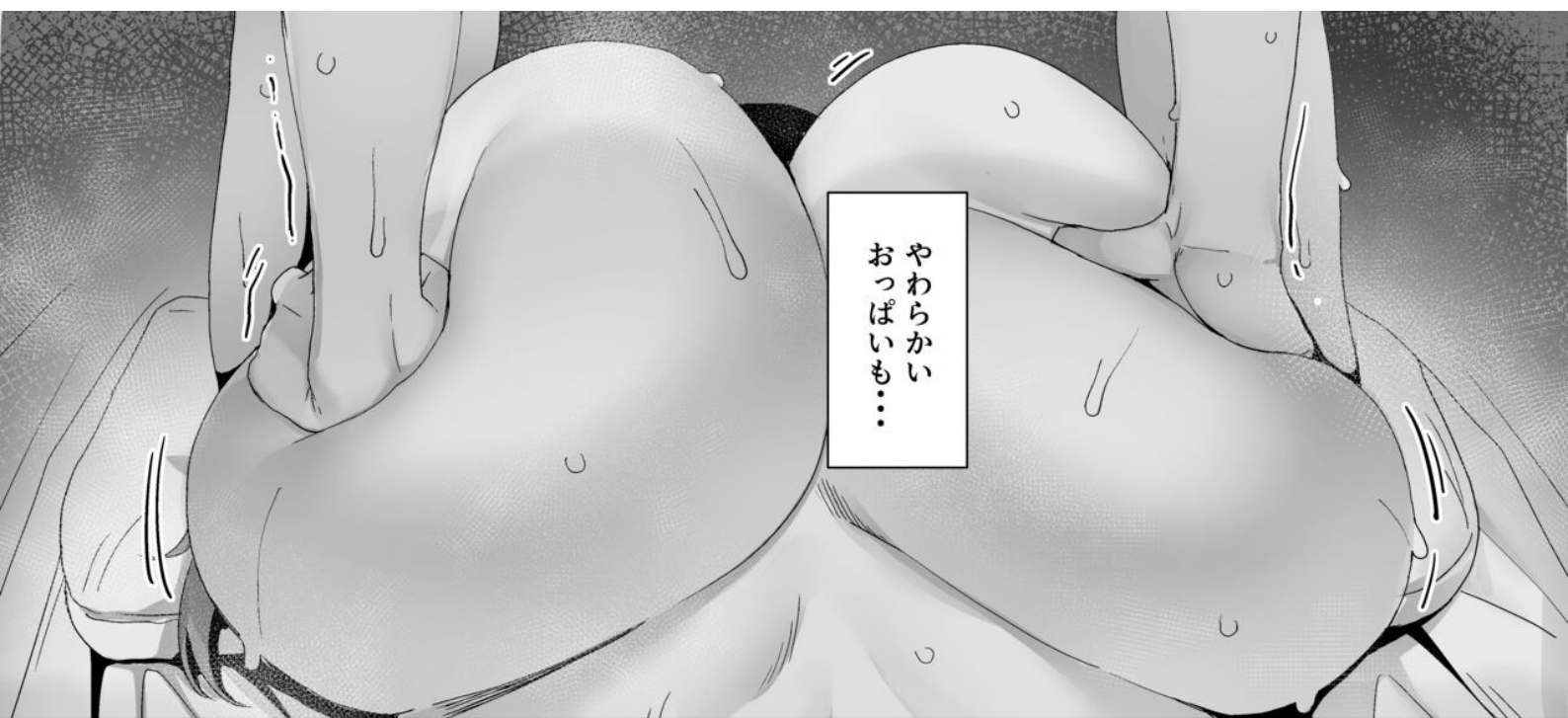
ちんちんが...

恋人えっち...

きもちす...







やわらかい
おっぱいも…



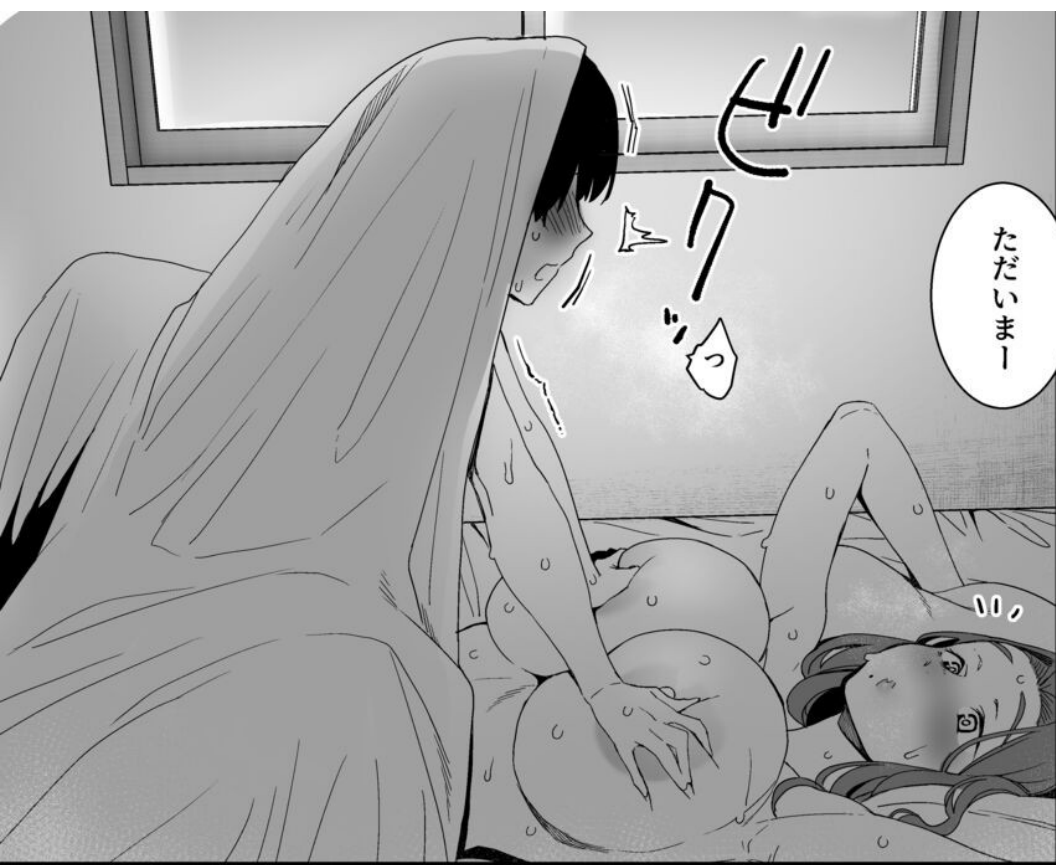
きもちいい
おまんこも…

もっと…

もっとおねえちゃんと

恋人えっちしたい……





ただいまー



夢中で時間…

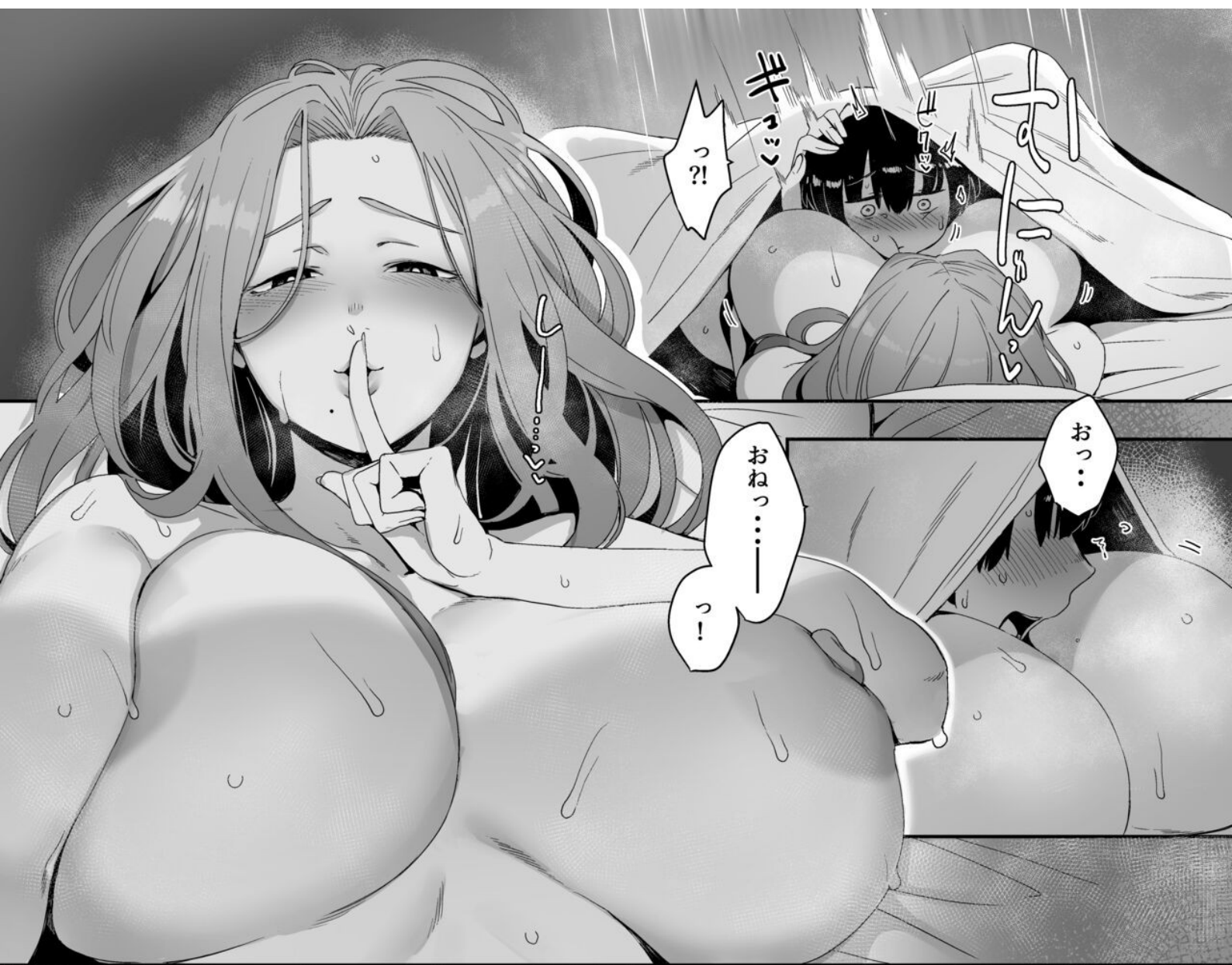
どうしよ…?!



おかあさん…っ?!

秋ー?





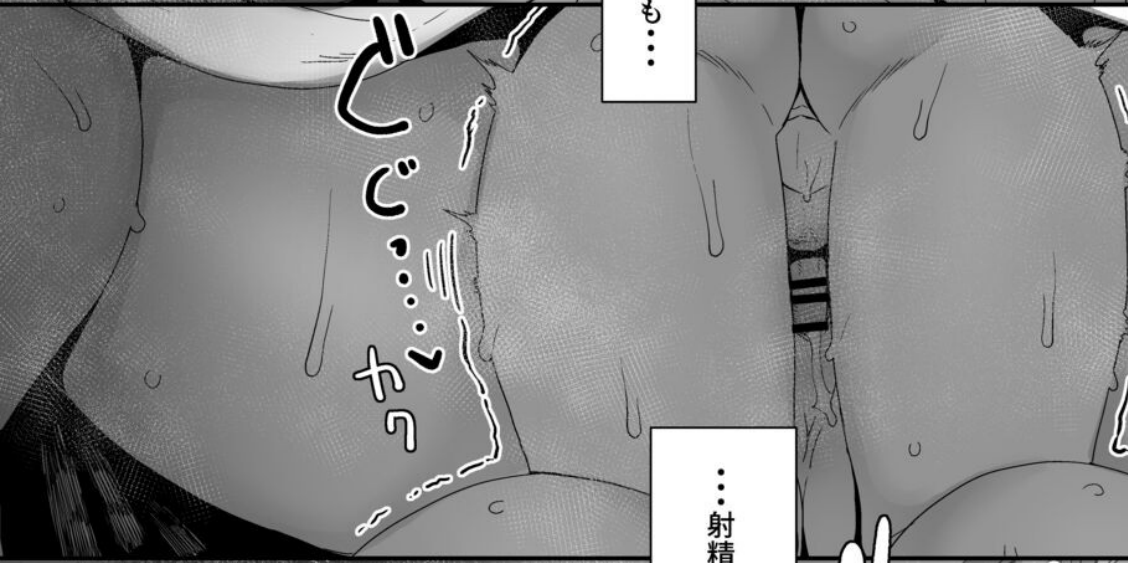


じつとしなきゃ...

でも...



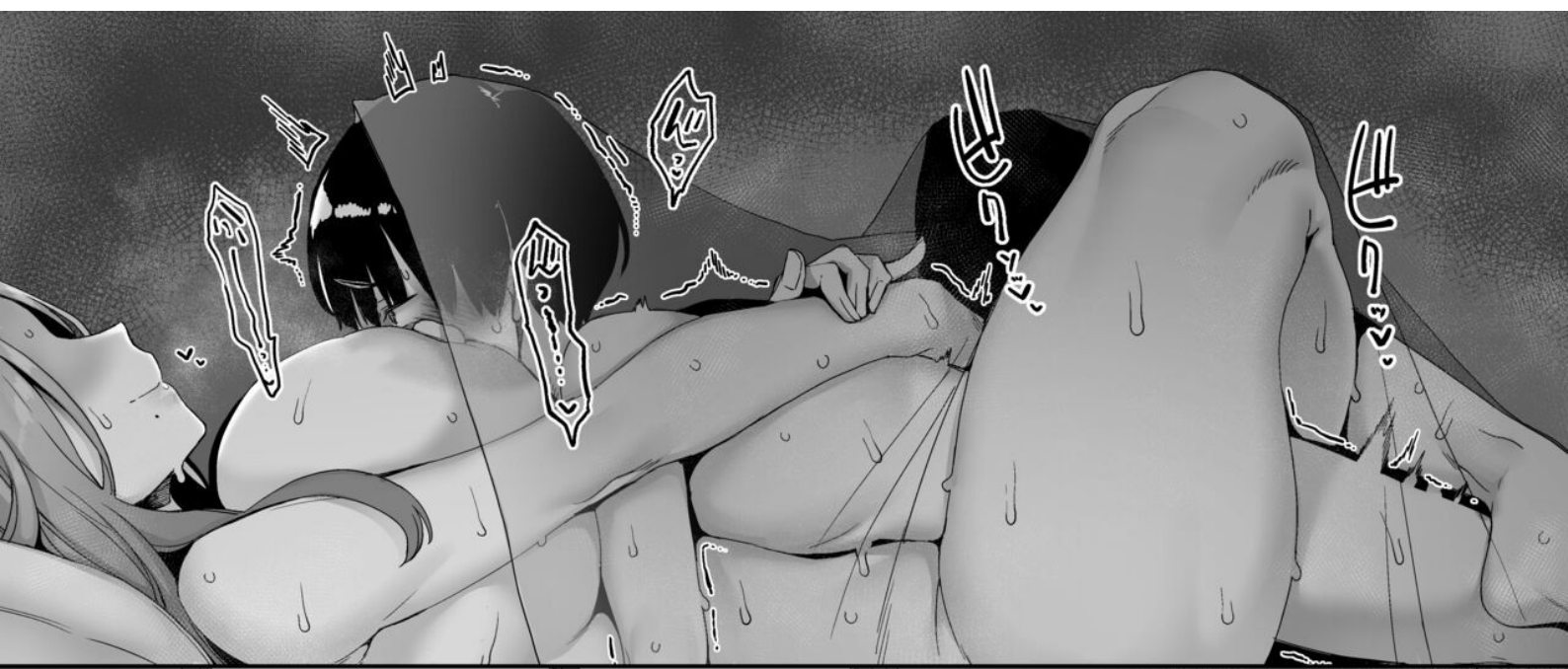
流石にもう寝ちゃったかな...



身体ぜんぶきもちよくて

...射精ちやつッ?!





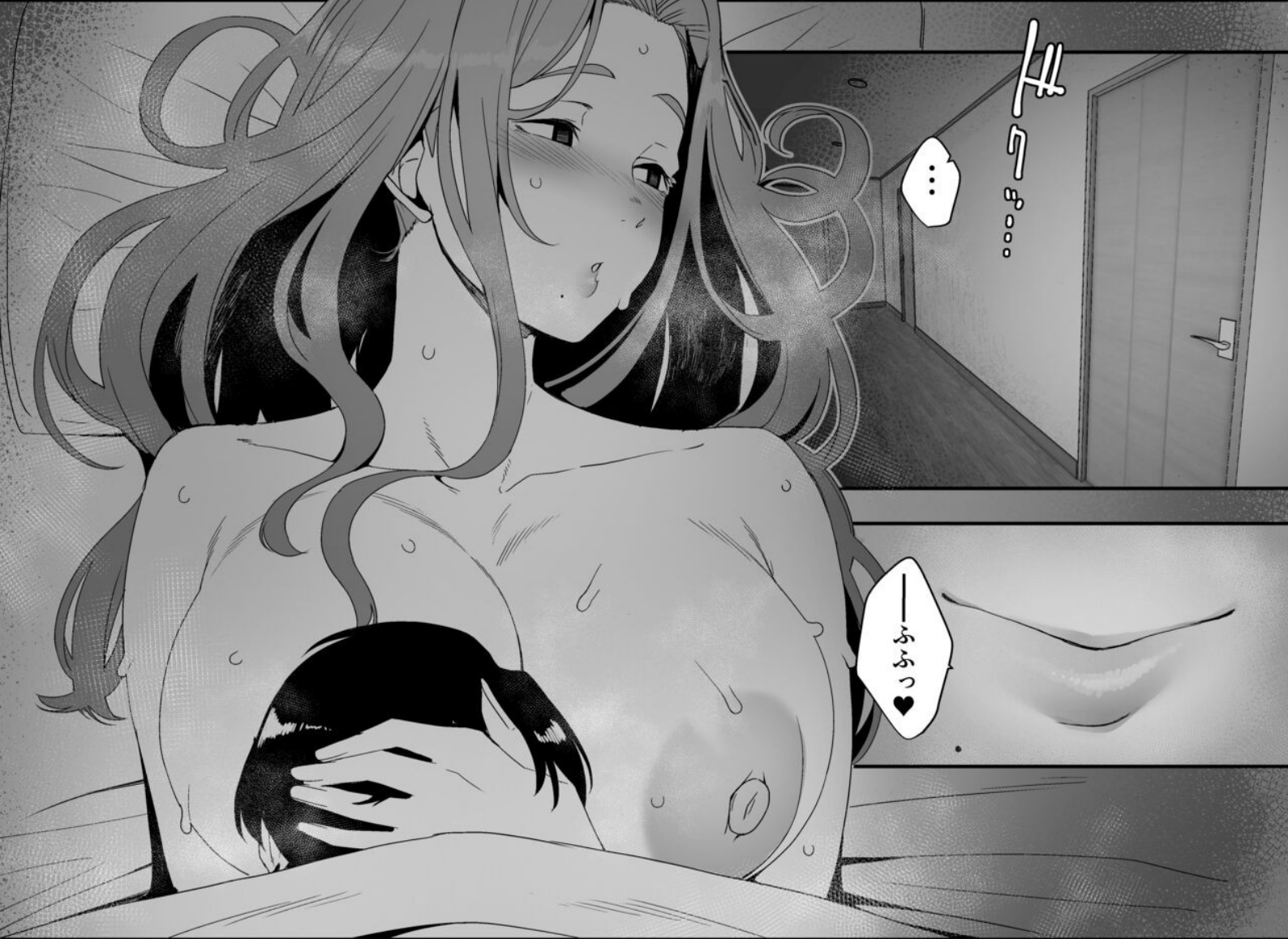
声...でちゃ...



ダメ...射精...

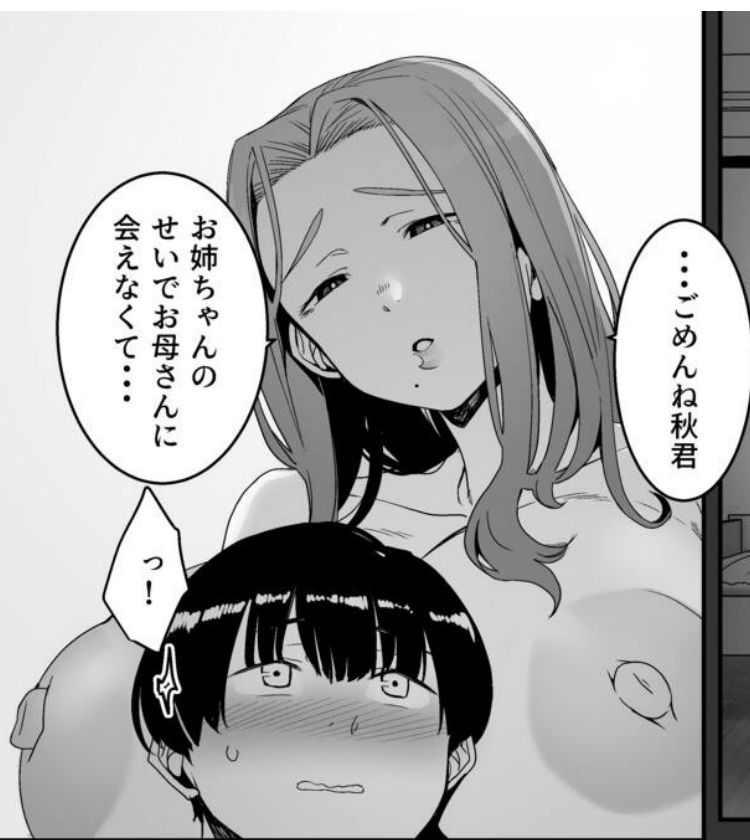


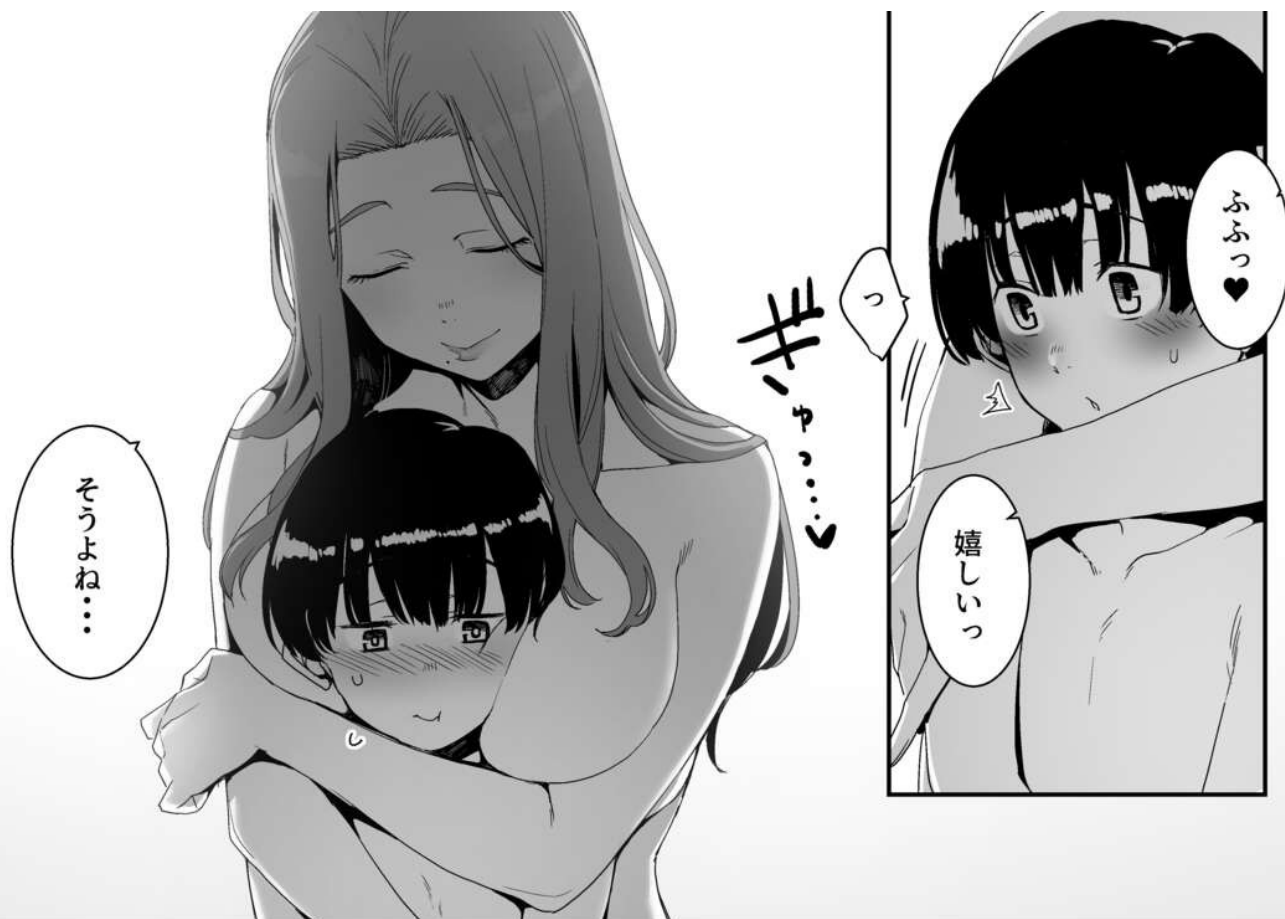




この秋君は

お母さんには
見せられないなあ...♡







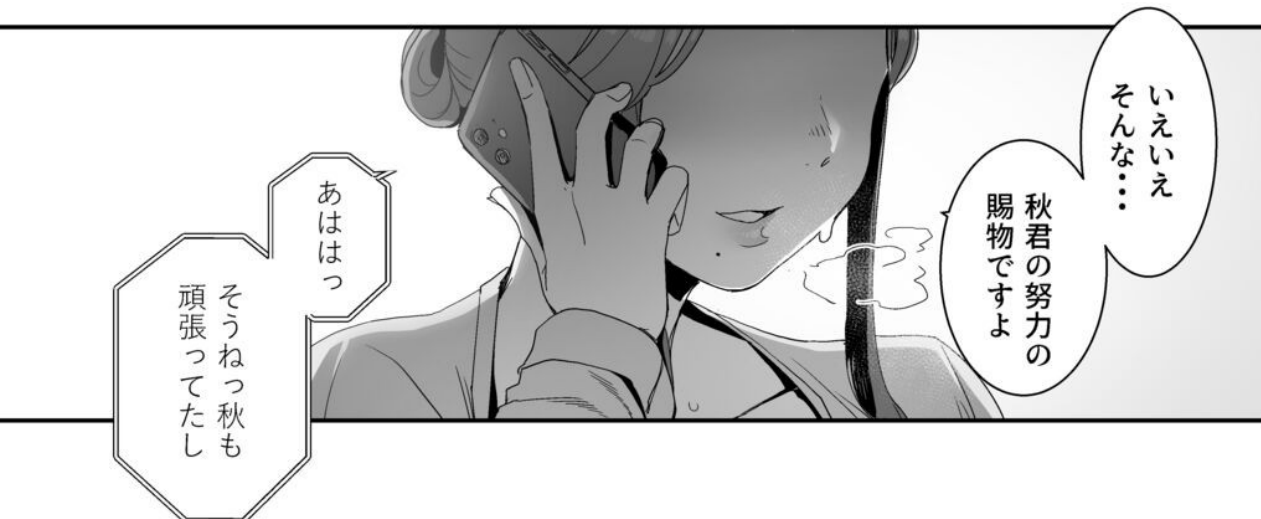
——いやー改めてほんと
秋があんな有名な有名校に
受かるとはねー



最初秋の口から受験したい
なんて言葉聞いたときは
驚いたけど



まきちゃんの教え方が
上手なおかげよほんと



いえいえ
そんな：

秋君の努力の
賜物ですよ

あははっ

そうねっ秋も
頑張ってたし



それにしても…

ほんとに
良かったの？



まきちゃんの
引越しが

た・ま・ま・学・校・の・近・く・

だからって

また面倒見て
貰っちゃって



ふふっ

気にしないで下さい

私にとって秋君は
家族同然ですから

ほんと真希ちゃん
には頭が
上がらないわあ

それじゃまた
秋の事よろしくね



…はい

それじゃ…

